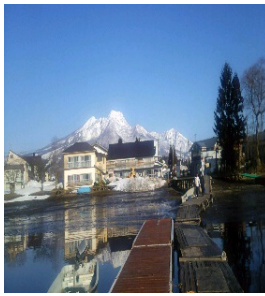


## 恒例のワカサギ交流会… 果たして釣果と成果は？

● 武笠 秀也

国労東日本本部 調査部長



東京圏では、桜が満開のニュースが報道されている中、妙高山や黒姫山などの山々の雪融け水が注ぎこむ野尻湖で、4月2日に長野運転・工作協議会恒例の「わかさぎ釣り交流会」が開催されました。

この交流会も13回目を迎え、春の風物詩になりつつあります。前日から釣り宿に10名の仲間が、学習と交流を深め、翌日には、さらに2名が当日参加で、湖上での交流を深めました。

前日の交流会では、進行役の坂本保執行委員が開会挨拶で「本日4月1日、総合車両センターでは、405名の社員のうち52名が委託に伴う若年出向発令が出された。国労組合員も多数発令されたが、この間地本が交渉などで警鐘してきた、安全な車両の提供という車両センターの役割が危機に陥りつつある。プロパーの育成も遅々として進まない中で、委託会社の将来展望、総合車両センターのあり方が問われる時。労働組合としてしっかり検証・点検・見直しを求めていこう。同時に運転協でも羽生田信一事務長や篠崎和浩氏に対し、本人の意思に反して、若年出向が発令されました。遠距離通勤、クロス通勤などの紛争を乗り越えて希望職場に戻れても、数年で出向させることに会社の理不尽さと怒りを覚える」と

職場の現状報告と共に開会のあいさつがあり、その後最年長の車両2科の丸山さんの音頭で乾杯。時間無制限の団結会に移行し、それぞれの近況について報告しあいました。

団結交流会には、東日本運転協の長谷川議長や東京運車協の安濃議長、他労組の仲間も加わり、「エルダーの労働条件を何とかしてほしい」「JR30年で線路が分断され、今後鉄道はどこに向かってはしるのか?」「50歳以上のほとんどを出向に出して、技術継承はどうなるのか?」などなど話が尽きない中、夜が更けていきました。

前日までは小雪交じりの寒空でしたが、当日は晴天に恵まれ、東日本工作協議会の小野議長も加わり、船上での交流を昨夜に引き続き継続しながらの釣り交流会となりました。ここ2～3年は釣果に恵まれていたので、参加者の期待が膨らみましたが……

船上交流でも「職場が分断され、仲間がバラバラにされる中でも13年も継続している、この交流会の取組みは大切」「来年も参加したい」などの声があがり、事務局での検討課題として各職協に提起することを確認しました。その後、船宿からのお土産をそれぞれが手にし、再会を確認して散会しました。

